

農林水産商工常任委員会提出資料

(平成28年8月19日)

項目	ページ
1 鳥取県農業青年サミット2016 in ちゅうぶ(第55回鳥取県農村青年夏のつどい)の開催について 【経営支援課】	1
2 第7回中海会議の開催結果について 【農地・水保全課】	2
3 農林水産部試験研究課題にかかる外部評価委員会の開催結果について 【とっとり農業戦略課】	4
4 第3回鳥取県農作業安全標語コンクールにおける受賞標語の決定について 【とっとり農業戦略課】	9
5 主要農産物の生産販売状況について 【生産振興課】	11
6 鳥取県林業災害防止連絡協議会の設立について 【林政企画課】	12
7 今年度の林業創生オーストリア林業技術導入の取組について 【林政企画課】	13
8 平成28年度全国林業経営推奨行事における農林水産大臣賞等の受賞について 【林政企画課】	14
9 第6回若手林業ビジネスサミット2016 in 鳥取の開催について 【林政企画課】	15
10 (株)鳥取林養魚場との琴浦町進出協定の締結について 【水産課】	16
11 平成28年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール審査結果について 【食のみやこ推進課】	23
12 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について 【農地・水保全課】	25

農 林 水 産 部



鳥取県農業青年サミット2016 in ちゅうぶ(第55回鳥取県農村青年夏のつどい)の開催について

平成28年8月19日
経営支援課

次代の農業を担う県内の農業青年、新規就農者が一堂に会し、青年同士のつながりを深めるとともに、お互いのスキルアップを図り、農業に対する知識と技術を深めることによって、経営の改善に資すること、農業者としての自信と誇りを培うことを目的として、「鳥取県農業青年サミット2016 in ちゅうぶ」を開催します。

1 開催テーマ

あなたが描く10年後の姿 ～目指す将来の農業経営像～

2 開催場所

北栄町北条農村環境改善センター大研修室（北栄町田井7-1）
農業青年・新規就農者等の営農実践ほ場（北栄町及び湯梨浜町内の3箇所）ほか

3 主催

鳥取県農村青年会議連絡協議会、中部農村青年連合、鳥取県

4 後援

公益財団法人鳥取県農業農村担い手育成機構

5 日程

(1) 1日目：8月23日（火）

時間	内容	備考（場所等）
13:15～13:30	開会式、オリエンテーション（視察先の概要説明）	北条農村環境改善センター
13:30～15:00	プロジェクト発表（農業青年等6名）	
15:10～16:00	意見発表（農業青年等3名、農業大学校研修生1名、倉吉農高生徒1名）	
16:10～17:00	分散会「自らの農業経営の強みと弱み」	
17:00～17:15	表彰式、閉会式	
17:45～19:45	夕べのつどい（懇親会）	北条オートキャンプ場

(2) 2日目：8月24日（水）

時間	内容	備考（場所等）
9:00～9:20	オリエンテーション（視察先の概要説明）	北条農村環境改善センター
9:20～11:20	農業青年等営農実践ほ場等の視察 ①新規就農：塚本宗慶氏（湯梨浜町） ・平成26年就農、主な品目：中玉トマト ②新規就農：生橋健吾氏（北栄町） ・平成26年就農、主な品目：梨、花き ③農業青年：(株)エイチアグリ（北栄町） ・平成14年就農、平成26年に法人化 ・主な品目：米、大豆	1事例20分程度 マイクロバス等による移動
11:30～12:00	意見交換	北条農村環境改善センター

(参考)

- ・鳥取県農村青年夏のつどいは、鳥取県農村青年会議連絡協議会が主催となって、毎年度、開催しているものであり、今回で55回目を迎える。
- ・昨年度は、平成27年8月21～22日、「鳥取県農業青年サミット2015 in せいぶ」として、西部地区において開催し、関係機関・団体の関係者を含めて、74名が参加した。

第7回中海会議の開催結果について

平成28年8月19日
広域連携課
水・大気環境課
農地・水保全課
河川課

沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、中海の水に関する諸問題を協議検討する中海会議の第7回開催結果は次のとおりです。

- 1 日 時 平成28年8月8日(月) 午後2時から4時まで
- 2 場 所 米子コンベンションセンター(米子市)
- 3 構成員 国土交通省中国地方整備局長、農林水産省中国四国農政局長、鳥取県知事、島根県知事、米子市長、境港市副市長、松江市長、安来市副市長
〈オブザーバー〉 環境省(中国四国地方環境事務所長)、防衛省(美保基地指令)

4 概要

(1) 中海及び境水道の堤防、護岸等の整備について

- 部会「中海湖岸堤等整備に係る調整会議」(事務局：中国地方整備局出雲河川事務所) から、中海湖岸堤整備事業の進捗状況等について報告があり、意見交換を行った。
- 斐伊川水系河川整備における下流の大橋川改修及び中海湖岸堤整備は、大橋川拡幅の前段階で中海湖岸堤を先行するという整備手順について、改めて国土交通省中国地方整備局に確認を行った。

[主な報告]

- ・短期整備箇所(西工業団地貯木場、旗ヶ崎、米子空港南等)は全箇所着手済みとなっており、平成29年度中の堤防完成を目指して整備を進める。
- ・短中期整備箇所(5箇所)のうち2箇所(貯木場南、米子港)について、平成28年度から前倒しして整備を進める。

[主な意見]

- ・米子港について、円滑な事業進捗のため情報共有・連携して関係者と調整していくようお願いしたい。(鳥取県)
- ・境水道(外江地区ほか)について、市の内水対策が概ね進んできたことから、護岸整備の調整・検討を進めるようお願いしたい。(鳥取県、境港市)
⇒市の内水対策の状況を踏まえ、市の要請に対して協議に応じていきたい。(国交省)
- ・堤防と併せて整備される樋門は、操作が非常に難しいため研修の実施をお願いしたい。併せて、排水ポンプ車による支援をお願いしたい。(米子市)
⇒樋門の操作研修の実施や排水ポンプ車による支援について、協力させていただく。(国交省)

(2) 中海の水質及び流動について

- 部会「中海の水質及び流動会議」(事務局：鳥取県生活環境部) から、水質測定結果や水質改善のための取組について報告を行い、今後も対策を進めることとした。
- 窪地対策について、水質浄化のための覆砂の有効性や方策の可能性について中海会議の部会の垣根を越えて、来年の中海会議に向けて検討することとした。

[主な報告]

- ・COD(化学的酸素要求量)、全窒素、全りんの中のいずれの項目も、平成27年度は全体的に見て良好な結果であった。要因としては、継続的に進めている下水道整備等による流入負荷削減の取組に加え、気象状況もプラスに作用したものと推察される。
- ・平成27年度に両県及び国交省で中海環境モニタリング検討ワーキンググループ(WG)を設置し、水質汚濁と関連する要素(気象、地形改変など)の関係性分析を実施した。
生活排水対策、赤潮頻度など水質変化と一定の関連性が結論付けられた項目もあったが、干拓中止に伴う地形改変等は、同時に変動している他の要素が存在するため、水質変化との因果関係は不明とした項目もあった。

[主な意見]

- ・平成21年度の干拓中止に伴う地形改変に伴う水質への影響について、水質変化との因果関係は不明

とされているが、引き続き評価、検証をお願いしたい。(米子市)

⇒ 関係性を明らかにするのは困難であるが、引き続き、データを取りながら、原因究明に取り組みたい。(事務局)

- ・水質浄化策検討のアプローチの仕方は、「モニタリング→要素の原因分析・検証→対策検討」という流れであるが、時間をかけて分析・検証しても「何が一番有効な対策なのかを見極めることは困難」という結論に至ることが多くあるように感じる。逆に、浅場造成、覆砂等を試験的に実施して変化を検証するようなアプローチはどうか。その結果、浄化効果があれば、積極的に実施すべきではないか。(松江市)

⇒ 特に覆砂事業について、中海会議の部会の垣根を越えて、来年の会議に向けて検討することとした(事務局)

(3) 中海沿岸農地の排水不良について

- 「中海沿岸農地排水不良ワーキンググループ」(事務局：米子市農林課)から、今年度、崎津モデルほ場に約150立方メートルの公共残土を搬入したことが報告された。
- 公共残土による客土が排水不良対策に一定の効果を上げていることから、関係機関が公共残土に関する情報の共有化を図り、ストックヤード方式による公共残土受入れをさらに促進していくこととなった。

(4) 中海の利活用について

- 「中海の利活用に関するワーキンググループ」(事務局：島根県政策企画局)から、利活用策として検討したアイデアについて報告があった。
- 地元住民から海外の来訪者までがサイクリングで楽しめる周遊コースの提示、サイクリングエイドの登録整備を進めるなどの中海周遊サイクリングの取組について報告があった。
- 中海オープンウォータースイム、中海SUPフェスティバルなどのマリンスポーツの取組について報告があった。
- 海藻を使った肥料の製造、販売に取り組むベンチャー企業が創業されるなどの中海の藻の活用の取組について報告があった。また、藻の肥料で栽培した海藻米の料理を試食していただいた。

(参考) 中海会議とは

平成21年12月19日に締結した鳥取、島根両県知事の「協定書」の趣旨に鑑み、沿岸住民の生命と財産を守り、美しい中海の自然環境を次代に引き継ぐため、新たに中海の水に関する諸問題を協議検討するため設置(平成22年4月22日)した会議。

農林水産部試験研究課題にかかる外部評価委員会の開催結果について

平成28年8月19日

とっとり農業戦略課

多角的・客観的視点からの試験研究課題の選定、試験研究の効率的な実施、及び広範囲に普及可能な技術の確立を図ること等を目的として、試験研究課題の評価を行いました。

1 評価方法

以下のとおり3段階で評価を実施。※別紙1のとおり

(1) 各試験場における評価・検討

- ①実施時期 5月～7月
- ②出席者 生産者、鳥取大学、JA、行政職員等
- ③目的 新規課題への的確な対応、既存課題の進捗、成果活用等を検討

(2) 部内検討会（内部評価）

- ①実施日 7月22日（金）
- ②評価者 農林水産部長、次長（事務・技術）、農業振興戦略監、とっとり農業戦略課長 計5名
- ③目的 新規課題への専門的な視点での評価、行政施策とのすり合わせ（所管課同席）

(3) 外部評価

- ①実施日 8月4日（木）
- ②評価者 学識経験者、消費者・生産者の代表 計6名
- ③目的 第三者による試験研究課題の必要性・効果等の評価

2 評価結果

(1) 評価対象

- ①来年度から取り組もうとする研究課題（事前評価対象）
- ②本年度終了予定の課題を継続等して取り組む研究課題（中間評価対象）

(2) 評価結果の概要

区 分	判 定							合 計
	事 前 評 価			中 間 評 価				
		◎	○	×	◎	○	×	
農業試験場	1	1						1
園芸試験場	3	3			2	2		5
畜産試験場	1		1					1
中小家畜試験場	4	4						4
林業試験場	4	4						4
栽培漁業センター	1	1			1	1		2
課題数合計	14	13	1		3	3		17

【凡例】

・事前評価の判定

- ◎：研究を実施する（12点以上）
- ：研究内容・方法を見直して実施する（9点以上12点未満）
- ×：実施を見合わせる（9点未満）

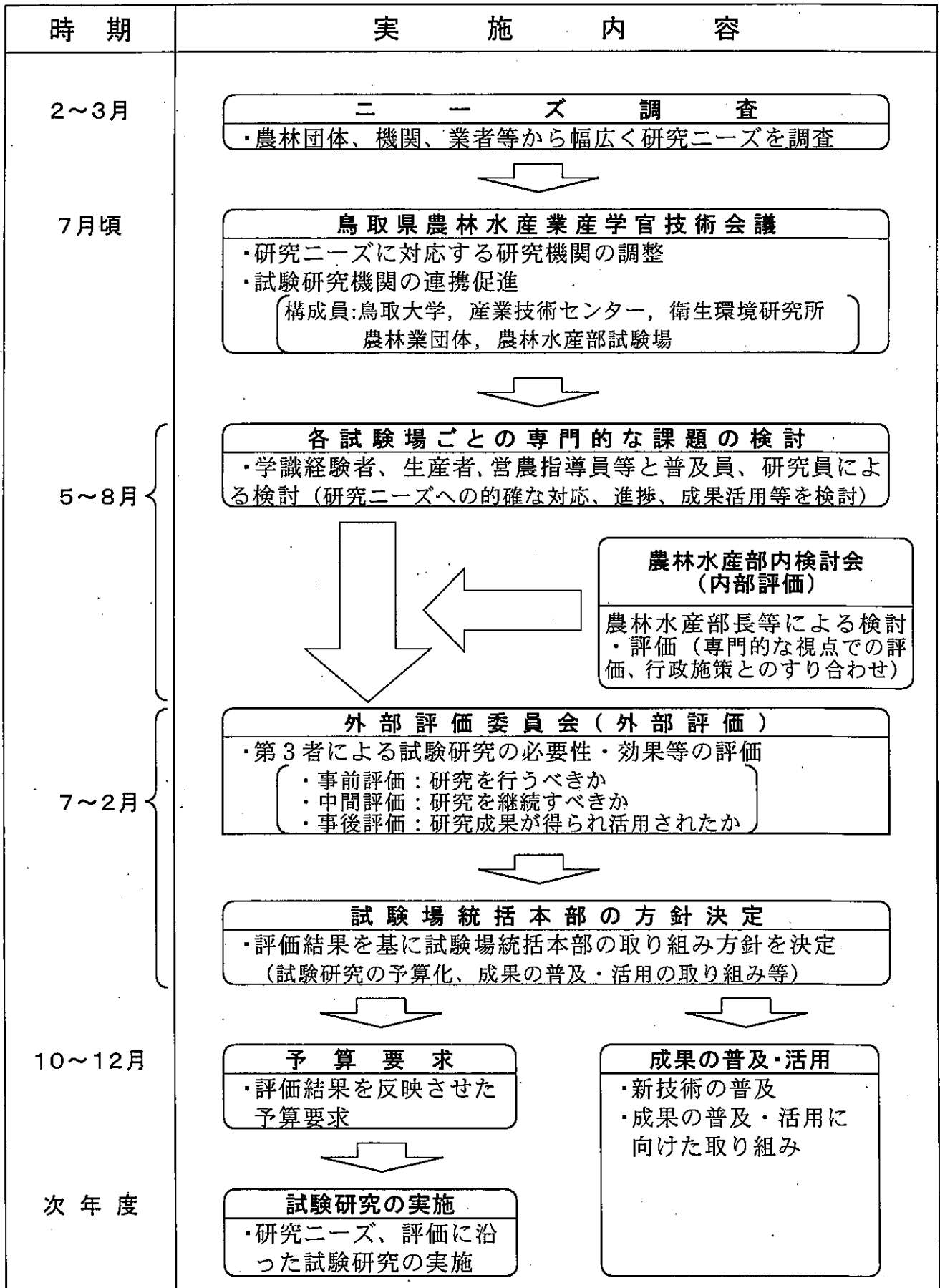
・中間評価の判定

- ◎：研究を継続する（12点以上）
- ：研究内容・方法を見直して継続する（9点以上12点未満）
- ×：研究を中止する（9点未満）

※ 各試験研究課題の概要と評価結果は別紙2のとおり。

【別紙1】

農林水産試験研究機関における研究課題の
要望把握、実施に向けた検討・外部評価、予算化・研究実施 概略フロー



【別紙2】

農林水産部試験研究課題にかかる外部評価委員会の開催結果について（平成28年8月4日実施）

とっとり農業戦略課

農業試験場		試験研究課題	実施年度	目的	評価結果	
事前1	担い手の収益性向上を実現する超省力水稲栽培の確立	H29～H31	水稲を中心とする水田農業は、米価の低迷が続いており、生産環境は厳しさを増している。このため、コスト低減のための直播栽培、及び、苗箱数を大幅に減らせる高密度育苗技術の確立を図るとともに、収量向上のための可変施肥機械を活用した施肥の最適化技術を確立することにより、県内水田担い手の収益性向上を実現させる。	評点	◎	
		主な意見	・労力、コスト削減で収益アップを考えられている。稲作農家がもうかるよう期待する。 ・農業の今後を考えると進めていかざるを得ない。現地と一体となった研究推進をお願いしたい。	判定	12.3	
園芸試験場		試験研究課題	実施年度	目的	評価結果	
事前1	黒ボク地域における野菜の生産拡大と高品質生産技術の確立	H29～H33	黒ボク畑での露地栽培と施設栽培における生産拡大と高品質生産技術の確立を図る。 露地栽培では、ブロッコリーの時期別適品種の選定や出荷予測技術等、施設栽培では、スイカ後作目目のミニトマトや軟弱野菜の栽培技術確立等に取り組む。	評点	◎	
		主な意見	・現場・環境特性に応じたこのような地道な取組は、産地づくり強化に非常に重要な県試の役割である。 ・ホルモン処理は近年、残留性と摂取過多による弊害が問題となっている。ホルモン処理不要の研究は今後のニーズや安全性を考えると重要な研究である。	判定	12.7	
事前2	EOD反応を活用した花壇苗の低コスト安定生産技術の開発	H29～H32	花壇苗に対して、EOD加温やEOD光照射で開花促進効果を得ながら、草姿をコンパクトにする新たな低コスト高品質化法を開発する。	評点	◎	
		主な意見	・地域（山陰）の特性にメリットの高い技術として期待できる。 ・EOD反応に対するいろいろな効果が具現化され、県内花き産業に大きなメリットがある。マニュアル化など、技術の確立を期待する。	判定	13.5	
事前3	産地ニーズに応える特色ある鳥取型ドウ栽培技術の確立	H29～H33	基幹品種の‘デラウェア’は省力化技術、‘ピオーネ’は早期成園化技術確立等に取り組む、‘シャインマスカット’は海外輸出を目指した長期貯蔵技術等の確立と低コスト単棟ハウスにおける栽培技術の確立等に取り組む。また、‘シャインマスカット’に続く有望品種を検討する。	評点	◎	
		主な意見	・地域の気候や地質の違いにより、最適な栽培法を確立する研究で成果に期待する。 ・生産者のニーズにもよく適合している。	判定	12.7	
中間1	鳥取のナシ産地再生に向けた画期的栽培技術の確立	H26～H30	ジョイント仕立て栽培技術確立のため、残された課題（苗の1年育成法とせん定、着果管理技術確立）を解決する。 ‘新甘泉’は自然受粉栽培の可能性を調査する。	評点	◎	
		主な意見	・新品種作出してから、実際に栽培・生産が可能となるまでのフォローとして大変重要な試験と思われる。ニーズのある農家との連携を大切にしていきたい。 ・ジョイント栽培技術や自然受粉は省力化に多大な貢献をする技術と考える。より確度の高い技術を確立するため、期間延長は必要である。	判定	14.0	
中間2	市場競争力のある鳥取オンリーワン園芸新品種の育成	H18～H32	対象品目に、ユリ、リンドウを加えて、シンテツポウユリは輪数増加、小球開花性ユリは秋出荷栽培技術、リンドウは三倍体の増殖法開発に取り組む。また、ナシでは地球温暖化に対応した「休眠打破に要する低温要求量の少ない」形質を備えた品種の育成を開始する。	評点	◎	
		主な意見	・ナシ特産地の維持に重要な研究と考えられる。 ・地球温暖化が進む中、温暖化に強い品種を作ることは急務と思うので研究を進めて欲しい。	判定	12.7	

畜産試験場					
試験研究課題	実施年度	目的		評価結果	
事前1 乳牛の繁殖性向上実証試験	H29～H31	乳牛の繁殖性低下の要因の一つであると指摘されている第一胃(ルーメン)内の異常発酵によって発生するエンドキシンの繁殖に負の影響を及ぼす量を調査し、飼料給与改善の指標として利用することで健全なルーメン内発酵を維持し、エンドキシンの抑制をすることにより繁殖機能を正常化し、分娩間隔の短縮を図る。		評点	○
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・経済効果の試算は明確でわかりやすい。酪農として生き残るためには、濃厚飼料も必要と思うが、粗飼料とのバランスをいかにとるか課題。 ・生産農家のニーズに沿った研究であり、研究課題もターゲットを絞ったもので有り、具体的な成果が期待できる。 			

中小家畜試験場					
試験研究課題	実施年度	目的		評価結果	
事前1 大山ルビーの背脂肪厚低減に関する研究	H29～H31	鳥取県産ブランド豚の大山ルビーは、枝肉成績で背脂肪が厚いことによる格落が多く、生産者の収益に影響する。そこで、背脂肪厚の低減の技術を開発し、生産者の収益が向上する飼養方法、飼育マニュアルを提示するため、以下の試験を実施する。 1. 育種改良時のデータ及び直接検定(90kg時)試験成績の分析を行い、種雄豚(B種)の育種価の推定をする。 2. 雌雄別飼育試験、制限給餌試験、好熱性複合微生物群の給与試験を実施し、飼育マニュアルを作成する。		評点	◎
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・格外率の低減など、作出したブランド豚の完成度・市場性を高めるフォロー技術として重要である。目標が具体的数値で示されており、成果を判断しやすい。 ・大山ルビーは鳥取を代表する品種であり、市場での評価も高いので、ブランド品質の向上と共に、農家の収入増につながる今回の研究は評価に値する。 			
事前2 大山赤ぶたの繁殖性向上に関する研究	H29～H31	本県で系統造成された肉質能力の高いデュロック種(大山赤ぶた)の繁殖能力(子豚生産頭数など)を改善するため、以下の試験を実施する。 1. 大山赤ぶたの繁殖成績を収集分析し、統計遺伝学的に繁殖能力の高い雌家系の割り出し、その家系を増殖し、種豚及び精液を農家に供給する。 2. 直腸検査と超音波画像診断装置により、卵巣の動きを把握するとともに、ホルモン剤(性腺刺激ホルモン放出ホルモン)処置後、一定期間後の人工授精技術を確立する。 3. 栄養学的な繁殖成績向上技術(アルギニン給与)を確立する。		評点	◎
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・農家所得向上だけでなく、さらなる育種(ブランドづくり)につながることを期待できる。 ・豚の出産数増加が生産農家の増収につながり、また、研究計画も具体的で成果に期待が持てる。 			
事前3 鳥取県産豚肉の美味しさと機能性(健康成分)の向上試験	H29～H31	系統造成したデュロック種(大山赤ぶた)を止め雄とした鳥取県産豚(LWD)の肉質を明らかにし、美味しさや機能性を追求するため、以下の試験を実施する。 1. 肉質分析(筋肉内脂肪含量、ビタミンB1、オレイン酸、グルタミン酸、イノシン酸など)を行い大山赤ぶた雄の能力を調査する。 2. 鳥取県産豚の独自性のある優秀な家系の選抜をして、県内農家に供給する。		評点	◎
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・消費者ニーズ(美味しさと健康)に着目した研究で、県産ブランドをアピールする上でも成果に期待が持てる。 ・鳥取県産豚の優位性を科学的に裏付けることにより、説得力がある販売戦力を展開できる優れた研究である。 			
事前4 鳥取地どりピヨの遺伝資源保存技術の確立	H29～H33	高病原性鳥インフルエンザ等の発生に備え、鳥取地どりピヨを速やかに生産回復するため、以下の試験を実施する。 1. 鳥取地どりピヨの種鶏(父)であるGSR(シャモみ×ロードアイランドレッド♀)の遺伝子を雄側で保存するために、開発した鶏凍結精液保存技術をベースに更なる繁殖成績の向上を目指して技術改善を図る。 2. 鳥取地どりピヨの生産回復に必要なGSRの精液の凍結保存・貯蔵を行う。		評点	◎
	主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・高品質でブランドでもある「鳥取地どりピヨ」を遺伝子的に保護する研究で、重要かつ緊急性のある課題である。 ・研究計画も慎重かつ具体的で目標達成の完成度に期待が持てる。 			

林業試験場		試験研究課題	実施年度	目的	評価結果	
事前1	早生広葉樹等の育苗及び植栽技術に係る実証試験	H29～H33	センダンなど早生樹の育苗・植栽試験による短伐期林業の技術開発、及び有用広葉樹の現地実証試験による育林技術の体系化を進め、中山間地域における里山・耕作放棄地の有効利用と所得向上に繋げる。	評点	◎	
				判定	13.2	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・里山の環境維持の効果は、幅広い県民に受け入れられやすい。 ・里山の保全是獣害対策など緊急の課題である。竹林除去も含め、広葉樹植栽は大きな可能性を秘めていると思う。 				
事前2	住宅内装製品への県産広葉樹材の活用に関する研究	H29～H31	県産広葉樹材を内装製品(フローリング、壁板等)として活用するため、材質に対応した加工技術の改良・開発と製品の試作・評価を行い、広葉樹材の付加価値向上と森林所有者の所得向上に繋げる。	評点	◎	
				判定	12.3	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・加工販売業者とのネットワークもあり、産業的な効果が期待できる。 ・生産コストとのかねあいが大きな問題となると思う。しっかりした流通ルートの確立が課題となる。 				
事前3	県産スギ材の効率的な葉枯らし乾燥システムの開発	H29～H31	スギ材を伐採した状態で葉枯らし乾燥する技術を改良・開発することにより、効率的な含水率低減と材色向上の処理を施した葉枯らし乾燥材の供給システムを確立し、県産スギ材の高付加価値化と有利販売に繋げる。	評点	◎	
				判定	13.8	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・葉枯らしの技術は昔から行われていたが、経験的な部分が多く適量のデータがなかった。今回の研究はそれらのデータも把握でき、また、マニュアル化がなされ全県に普及すると、県産材としてのブランド化の強化につながるなど、有意義な研究である。成果に期待する。 				
事前4	ドローンを使った森林現況解析及び架線集材におけるリードロープ架設の実証試験	H29～H30	ドローンを活用して所有森林の境界や現況を随時把握する手法を開発し、適切な間伐施業や伐採・収穫、病害虫被害や気象災害への迅速対応に繋げる。 また、架線集材でのワイヤー索張りの前段階で必要なリードロープの運搬作業を、ドローンを使って効率的に行う実証試験を行い、安全で低コスト・低労力の架線集材による県産材の安定供給に繋げる。	評点	◎	
				判定	14.3	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンを利用し、安全性、コスト対策等に有効な新しい研究であり、期待する。 ・機動的に現場の把握ができ、現場サイドとしては、非常に役立つ研究である。 ・要望があれば、すぐに対応できるような体制を整えていただきたい。 				

栽培漁業センター		試験研究課題	実施年度	目的	評価結果	
事前1	資源回復技術開発試験	H29～H33	平成25年～28年にかけて水産基盤整備事業で全県にイワガキ礁が設置されたが、その後の追跡調査においてイワガキ稚貝の付着が悪い地区も存在していることが明らかとなった。付着が悪い地区でのイワガキ資源再生については効果的かつ効率的な手法がなく、本研究において有効な資源再生手法を検討し、イワガキの資源回復に資する。	評点	◎	
				判定	13.3	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・資源減少が目前に迫っているため、スピード感を持って効率的に取り組んでいただきたい。 ・今後、漁獲量が減少するという見通しのもとに研究が立案され、ニーズに沿ったもので、県産ブランドの維持という観点から重要な研究である。 				
中間1	東郷池ヤマトシジミ資源回復試験	H26～H31	ヤマトシジミの資源を復活させるため平成16年に「シジミ増殖のための水門操作マニュアル」を策定したが、近年の気象条件等により、湖底で貧酸素域が発生し、シジミ資源が大きく減少したことにより、水門操作の改訂を行った。このため、改訂版が有効に機能するかどうか3カ年で検証する。また、復活しつつあるシジミ資源の有効活用の観点から、資源状況に応じた最大漁獲可能量について指標を作成する。	評点	◎	
				判定	12.7	
主な意見		<ul style="list-style-type: none"> ・H24からH27にかけて、漁獲量は増えているものの、当初の期待値には至っていないということで、研究のニーズは未だ高いままである。 ・東郷池というせまい漁場で3億円もの漁獲高が得られている。優れた研究なので、地元の活性化のために、産官一体となった成果を期待する。 				

第3回鳥取県農作業安全標語コンクールにおける受賞標語の決定について

平成28年8月19日
とっとり農業戦略課

農作業事故の防止をより一層強力に推進するため、県民の皆様から広く農作業安全標語を募集したところ、700点を超える多数の応募をいただきました。このたび審査会を開催し、受賞標語5点が決定されましたので報告します。

1 第3回鳥取県農作業安全標語コンクールの概要

- ・実施主体 「鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会」（詳細は参考のとおり）
- ・目的 農作業事故防止の重要性への関心を高め、推進に拍車がかかるように広く標語を募り、農業者に対する安全啓発活動に活用する。
- ・募集期間 平成28年6月1日（水）～7月26日（火）
- ・応募状況 応募点数：738点 応募者数：321名
- ・審査 平成28年8月2日（火） 協議会役員6名で審査
- ・選考視点 安全な農作業に向け、農業者に対するメッセージ性がある点
テーマの趣旨が明るく簡潔に表現され、言い回し易い点
- ・表彰式 平成28年8月23日（火） 於；JA会館（鳥取市末広温泉町）
当協議会長より表彰状及び副賞を授与

2 受賞標語

以下の最優秀賞1点、優秀賞4点を決定した

◎最優秀賞

「事故防止 きちんとしてこそ プロ農家」
陶山 智美（すやま ちみ） （倉吉市 高校3年生）

○優秀賞

「畑には 帽子 水筒 忘れずに」
中村 藍琉（なかむら あいる） （鳥取市 小学3年生）

「農作業 慣れた時こそ 起こる事故」
井上 羅奈（いのうえ らな） （倉吉市 高校2年生）

「農作業 事故を減らすのは 家族の声かけ」
梅津 菜愛（うめづ なみ） （倉吉市 高校3年生）

「気をつけて つかれた体で NO（農）作業」
小西 大地（こにし だいち） （倉吉市 大学2年生）

【これまでの最優秀賞受賞標語】

第1回 「お帰りなさい 今日も更新 我が家の農作業事故0記録」

第2回 「おつかれ様 安全な農作業で みんな笑顔」

3 今後の取り組み

最優秀賞の標語については、今後1年間にわたり農作業安全推進に関わるポスター、チラシ等の啓発資材や、ラジオCM、CATV等を利用した広報活動に活用する。

また、各市町村で実施される地域活動（講習会等）の様々な機会にも活用、標語を活かして高齢者にもわかり易く安全啓発を行うことにより、事故防止につなげる。

【参 考】

「鳥取県農作業安全・農機具盗難防止協議会」の活動概要

1 組織概要

- (1) 発足時期 平成25年5月9日
- (2) 構 成 員 JA関係（県中央会、全農とっとり、鳥取いなば、鳥取中央、鳥取西部、大山乳業、畜産農協）、鳥取県農業共済組合、農機具メーカー・販売会社（3社）、全市町村、県
- (3) 予 算 額 1,575千円（平成28年度）
JA関係・県農業共済組合・農機具メーカーほか
：1/2～1/4、
一部市町村：1/2、県：1/2～1/4

2 活動体制と内容

高齢者にかかる農作業事故が全体の7割前後を占めるため、県域では高齢者にもわかり易い情報発信に努め、地域では市町村を中心に反復した啓発活動を展開する。

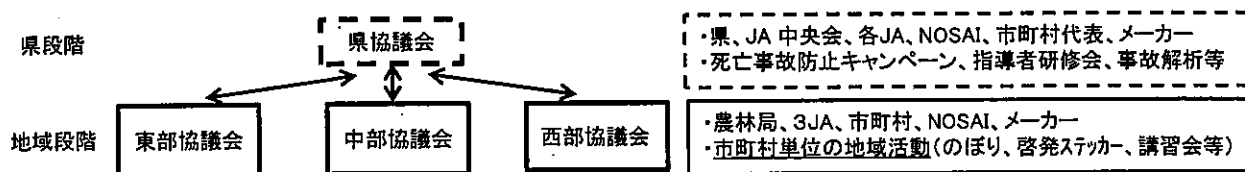
(1) 県協議会

- ・農作業事故情報の解析を行い、事故防止のための活動計画を毎年作成する。
※県はJA職員を農作業安全推進員に委嘱し、事故情報の収集と共有を図る。
福祉保健部、警察本部とも連携し、熱中症や路上事故の情報等も収集する。
- ・春、秋の農繁期の農作業安全運動など広域な啓発広報（ラジオCM、CATV等）を実施する。
- ・農作業安全標語コンクールを開催する。

(2) 地域協議会

- ・地域協議会を構成する各機関の独自のルートを活用して、安全啓発を実施する。（機関誌・広報誌、ホームページ、生産部の集会、防災行政無線、店舗等でのポスター掲示等）
- ・市町村が地域活動計画を作成し、関係機関と連携して地域活動を実施する。（一部市町村では活動経費を負担）。また、集落等では安全講習会を開催する。
- ・事故等の多発に際しては、緊急啓発資材（盗難防止ポスター、熱中症予防啓発チラシ）を作成・配布する。

【協議会組織の構成イメージ】



3 本年度の活動の特徴

農業者に対する安全啓発活動を、これまでのモデル地区を中心にした点的な取り組みから、さらに多数の集落を対象とする面的な活動へと展開・強化を図っている。

【農作業事故に占める高齢者にかかる発生率】

年 度	事故件数	うち死亡事故件数	備 考
H28	8 (75%)	2 (100%)	7月末までの報告分
H27	6 (67%)	4 (75%)	

注；（ ）内が65歳以上の高齢者率を表す

主要農産物の生産販売状況について

平成28年8月19日
生産振興課

8月12日現在での主要農産物の生産販売状況について報告します。(全農とっとり調べ)

1. すいか

- (1) 栽培面積：285ha(前年比100%)→大栄177ha、倉吉94ha、東伯8ha他
 (2) 生育状況：好天に恵まれ、ハウス、トンネル共に順調に生育した。4月下旬、5月上旬の強風と低温の影響でトンネルの一部で着果不良等が見られたが、全体としては大きな影響はなく、高品質なすいかに仕上がった。
 (3) 出荷時期：各産地の初出荷は前年並の6月上旬となり7月中旬にはほぼ終了した。
 (4) 販売状況：出荷期間中に、消費地の気温が高めだったこと、競合産地の数量が少なめだったこと等の理由で、終盤まで単価が崩れず、終始高単価での販売となった。

区分	6月1日から7月31日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
28年度	14,192	197	2,798
27年度	14,438	173	2,494
前年比	98%	114%	112%

2. 白ねぎ

- (1) 栽培面積：春ねぎ75ha(前年比104%)、夏ねぎ83ha(前年比105%)
 秋冬ねぎは集計中(前年面積245ha)
 (2) 生育状況：春ねぎは、べト病と強風の影響で4月と5月の出荷が減少した。夏ねぎ、秋冬ねぎは、軟腐病の発生が例年と比べて少なく、順調に生育している。
 (3) 出荷時期：夏ねぎ初出荷は6月1日と前年並みであり、秋冬ねぎも前年並みの10月1日からの出荷を予定している。
 (4) 販売状況：暖冬の影響で全国的に前倒し出荷となり、春ねぎ以降の出荷量が少なくなったが、単価は前年を上回っている。

区分	3月1日～7月31日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
28年度	2,799	410	1,149
27年度	3,023	378	1,143
前年比	93%	108%	101%

3. 初夏どりブロッコリー

- (1) 栽培面積：164ha(前年比103%)
 (2) 生育状況：定植、生育とも順調に進んだが、4月16日から17日、5月4日から5日の強風で一部軸折れ、花蕾のスレ等が散見された。
 (3) 出荷時期：初出荷は4月26日と前年より5日早く、7月31日ではほぼ終了。
 (4) 販売状況：全国的に前倒し出荷で、一時飽和状態となったが、国産需要が高いことで高単価を維持し、過去最高の前年を上回る販売金額となった。

区分	4月26日～7月31日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
28年度	1,248	363	454
27年度	1,287	351	452
前年比	97%	103%	100%

4. ハウス二十世紀梨

- (1) 栽培面積：21.2ha(前年22.4ha、前年対95%)
 (2) 生育状況：気象条件にも恵まれて順調に生育し、例年と比べて大玉で高糖度の果実に仕上がっている。7月27日に開催された査定会の結果は、果重：434.9g(過去最高)、糖度11.1度(過去10年で最高)。
 (3) 初出荷日：8月2日(前年8月3日)
 (4) 販売状況：出荷が前倒しとなっており、単価の高い盆前出荷の割合が9割程度の高水準となる見込みである。また前年を上回る高単価で、順調な販売となっている。

区分	8月2日～8月12日までの販売実績(累計)		
	数量(t)	単価(円/kg)	販売金額(百万円)
28年度	538.2	583	314
27年度	550.6	572	315
前年比	98%	102%	100%

(全農とっとり販売速報)

【参考】

「二十世紀梨」

- ・結実が良好で天候にも恵まれ、大玉で高糖度の果実になることが期待される。
- ・8月19日に査定会を開催し、初販売日(前年は8月27日)を公表する予定。

「なつひめ、新甘泉」

- ・全県的な糖度基準(なつひめ：11.5度、新甘泉：13度)に沿って、JA毎に糖度センサー付き選果場で広域選果し、品質の統一を図っている。
- ・なつひめは8月10日に査定会を開催し、販売解禁日を8月17日に決定した。
- ・新甘泉は8月17日に査定会を開催し、販売解禁日を8月22日に決定した。

鳥取県林業災害防止連絡協議会の設立について

平成28年8月19日

林政企画課

林業災害の防止に向けて、林業関係団体、国関係機関及び県関係部局により「鳥取県林業災害防止連絡協議会」が設立されました。

1 鳥取県林業災害防止連絡協議会の概要

(1) 構成等

・設立年月日 平成28年8月8日

・会長 林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部長 ^{まえたやすひこ}前田八壽彦

・副会長 鳥取県森林組合連合会 代表理事会長 ^{まえたゆきみ}前田幸己

鳥取労働局労働基準部長 ^{かわのいさと}河野勲人

・構成員

<林業関係団体> 林業・木材製造業労働災害防止協会鳥取県支部、鳥取県森林組合連合会、(公財)鳥取県林業担い手育成財団、(公財)鳥取県造林公社

<国関係機関> 鳥取森林管理署、鳥取労働局労働基準部、国立研究開発法人森林総合研究所森林整備センター鳥取水源林整備事務所

<県関係部局> 危機管理局、商工労働部雇用人材局、農林水産部森林・林業振興局

(2) 協議会の目的

県内で働く林業従事者が、安全で安心して働くことができる労働環境を実現するため、構成員間の情報共有や施策・取組等の協議を通じ、相互に連携・協働し、安全意識の向上を図ることによって、林業災害の防止に向けた取組を推進する。

2 設立協議会で出された主な意見

- ・現場を安全にするには、事業体のトップがどれだけ危機意識を持ち現場に指示ができるかが大切。林業災害の現地検討会や災害発生原因なども共有しながら、肌感覚で安全衛生を意識できるようにしていきたい。
- ・林業災害は同じ事故の繰り返し。ゼロ災害を目指し、協議会として施策を検討していきたい。
- ・県が今年度5月補正予算で実施する「安全に特化した林業研修(伐木の反復訓練等)」により事故が減少することを期待。
- ・衛星電話や「とっとり森林緊急通報カード」等の利用実態について適切に把握し、活用の促進に向けた取組を進める必要がある。

3 今後の展開

- ・今年度、協議会で「鳥取県林業安全大会」(中部を予定)を開催。
- ・林業災害の迅速な情報共有や重大災害発生時に「林業災害事故検討会」を開催するなど、協議会を中心に、相互に連携・協働しながらゼロ災害に向けた取組を推進。

今年度の林業創生オーストリア林業技術導入の取組について

平成28年8月19日

林政企画課

本県では、平成26年度から、本県と同様に急峻な地形条件下でも安全で生産性の高い林業を実践する林業先進国オーストリアに学ぶ取組みを行うことによって、林業の成長産業化を通じた林業地における地方創生の実現を目指しています。

今年度は、オーストリアからの技術導入等を目的として次の取組みを行います。

1 オーストリアへの林業技術研修生の派遣 [日本財団鳥取県人材育成プログラム]

本県林業の目指すべき将来像とも言えるオーストリアに県内の若手林業者を派遣し、先進的な林業技術を習得することにより将来を担う人材を育成する。

(1) 日程

<オーストリア派遣> (8月31日(水)～9月12日(月))

9月2日(金)～3日(土) クラーゲンフルト林業・木材産業展示会*の視察

9月4日(日)～9日(金) オシアッハ森林研修所 林業研修の受講*

※クラーゲンフルト林業・木材産業展示会

2年に1度開催され、林業機械、木質バイオマス、製材、林業装備・道具類等のメーカーなど、22カ国から約500の出展がある国際的な展示会。

※オシアッハ森林研修所

オーストリア農林環境水資源管理省森林局に所属し、森林官(フォレスター)、森林マイスター、森林作業員等になるための研修機関。

<派遣事前研修>

8月19日(金) 中部総合事務所

日本財団鳥取事務所長、オーストリア大使館上席商務官、過年度派遣者との意見交換。

(2) 参加者 (公募6名、県職員1名)

森林組合職員2名、森林組合現場班長3名、自伐林家1名、県職員1名の計7名を派遣する。

2 オーストリアからの講師招聘 [林業創生オーストリア技術導入推進事業]

オーストリアのピヒル森林研修所*から講師を招き、架線系機械の現地公開研修会を開催し、急峻な地形条件下でも安全で生産性の高いオーストリア林業を県内へ広く普及する。

※ピヒル森林研修所

森林所有者が加入するシュタイアーマルク州農林会議所に所属し、林家や林業事業体作業員を対象に、安全で生産性の高い林業技術を指導することを目的として設置された研修所。

演習林350haを持ち、実地訓練が充実している。

(1) 招聘者

ピヒル森林研修所 所長 マルティン・クロンドルファー氏

タワーヤーダ講師 マルティン・ホルン氏

(2) オーストリア製架線系林業機械現場公開研修 (10月5日(水)、6日(木))

オーストリア製架線系機械作業を中心に、安全作業、林地保全等について、八頭中央森林組合と鳥取県中部森林組合の架線作業班に対して現場指導(一般公開)する。

(3) オーストリア林業シンポジウム (10月7日(金))

○オーストリア林業研修の成果報告

○講演 「オーストリアの安全で効率的な林業と人材育成」(仮題)

ピヒル森林研修所 所長 マルティン・クロンドルファー氏

「森林資源を活用した地域創生を目指して」(仮題)

オーストリア大使館商務部 上席商務官 ルイジ・フィノキアーロ氏

○場所 福祉人材研修センター

平成28年度全国林業経営推奨行事における農林水産大臣賞等の受賞について

平成28年8月19日
林政企画課

公益社団法人大日本山林会が主催する全国林業経営推奨行事において、本県から以下のとおり2名の受賞が決まりましたので報告します。

1 受賞者等

受賞名	受賞者	受賞理由
農林水産大臣賞	八頭中央森林組合 代表理事組合長 前田 幸己 (八頭町郡家)	施業集約化を行うプランナーの育成、計画的施業の基礎となる森林経営計画の作成と的確な実施、高性能林業機械等の積極的な導入とそのオペレータ等人材の育成、生産コストを縮減するための月次決算体制の導入に鋭意取り組むなど、森林資源の持続的な活用を基本とした経営が高く評価されたもの。
林野庁長官賞	田村 清 (伯耆町二部)	山村の貴重な収入源である椎茸栽培経営をたゆまぬ改善により成功させたのみでなく、そのノウハウを地域全体に波及させる努力、椎茸の消費拡大や後継者の養成に向けた長年の取り組みが評価されたもの。

※全受賞者：農林水産大臣賞 8件、林野庁長官賞 16件、大日本山林会会長賞 4件

2 全国林業経営推奨行事について

(1) 概要

昭和37年から農林水産祭の参加行事として都道府県知事から推薦された優良林業経営体の審査を行い農林水産大臣賞等を贈呈しているもの。

(2) 主催

公益社団法人 大日本山林会

※明治15年に林業の改良・進歩を目的に設立。133年の歴史がある林業団体。昭和9年に全国植樹祭の先駆けとなる愛林日記念植樹事業を実施。大正4年社団法人、平成22年公益社団法人となる。平成26年10月10日から秋篠宮文仁親王殿下を総裁に仰ぐ。

(3) 趣旨

森林の適正な管理、林業の技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の發揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林の管理経営体を表彰。

3 表彰式

平成28年11月8日(火)東京 赤坂 三会堂ビル

※例年、総裁である秋篠宮親王殿下御臨席のもと開催。

4 参考

(1) 過去3カ年の受賞状況(本県)

平成27年度 農林水産大臣賞 藪田 昌男(八頭郡若桜町)

平成26年度 林野庁長官賞 宮本 芳満(日野郡日南町)

平成25年度 林野庁長官賞 小河内集落(鳥取市河原町)

(2) 今年度の他県の受賞状況

農林水産大臣賞 : 北海道、岩手県、栃木県、岐阜県、徳島県、長崎県、宮崎県

林野庁長官賞 : 北海道3件、青森県、秋田県、山形県、群馬県、埼玉県、新潟県、石川県、岐阜県、愛知県、和歌山県、愛媛県、佐賀県

大日本山林会会長賞: 北海道、秋田県、石川県、長野県

第6回若手林業ビジネスサミット2016 in 鳥取の開催について

平成28年8月19日

林 政 企 画 課

平成28年9月17日(土)～19日(月)の間、智頭町で「とっとり緑の仲間の集い」の主要メンバーが、「第6回若手林業ビジネスサミット2016 in 鳥取」を開催されます。有志による実行委員会形式で高知県で始まり、毎年各県で開催されているものです。

なお、「とっとり緑の仲間の集い」は、平成25年全国植樹祭の関連行事である全国林業後継者大会を契機として平成25～27年度にかけて開催されてきたものです。

1 目的

林業に興味や関心のある若い男女が全国から集まり、開催地の林業の実像を見たり、林業後継者の声を聞き、林業に対する新たな気づきや関心を深めるとともに、交流の輪を広げる。

2 内容

- (1) 主催者 若手林業ビジネスサミット2016 in 鳥取実行委員会
代表 大下林業有限会社 取締役 大下 武夫
構成員：自伐林家、森林組合技能職員のほか大学生、Iターン者等若手の林業に興味のある者12名
- (2) 日 時 平成28年9月17日(土)～9月19日(月)
- (3) 開催地 八頭郡智頭町
- (4) 対 象 30代まで
(林業関係者に限らず、幅広い異業種・学生を含む。)
- (5) 主な内容
 - 9月17日 原木市場セリ(石谷林業株式会社)、製材(株式会社サカモト)、慶長杉視察
 - 9月18日 石谷家住宅視察、智頭町散策、フロントランナー発表
 - 9月19日 ワークショップ

3 参考

ビジネスサミットの開催履歴 高知、東京、北海道、岐阜、京都

(株) 鳥取林養魚場との琴浦町進出協定の締結について

平成28年8月19日
水産振興局水産課

(株) 鳥取林養魚場 (福島県の(株) 林養魚場の子会社) が、琴浦町の赤碕港において、最先端技術「陸上循環濾過養殖システム」を用いたギンザケ養殖場を新設することとなり、これを支援する鳥取県及び琴浦町との間で8月2日に協定を締結しましたので、その概要を報告します。

1 進出企業

- (1) 名称 (株) 鳥取林養魚場
(2) 代表者 代表取締役 萩原 岳人 (はぎわら かくと)
(3) 本社所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字赤碕1920番地7
(4) 会社設立 平成28年5月9日

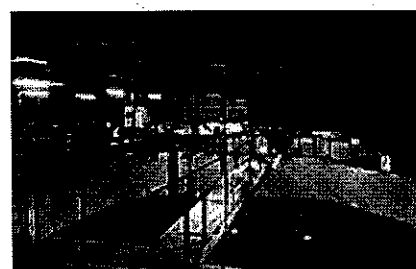
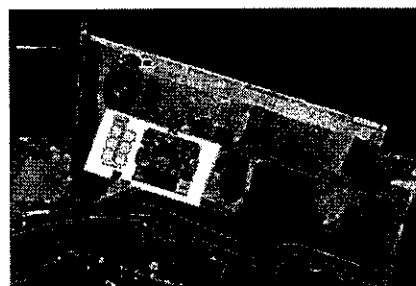
(株) 林養魚場
代表者 代表取締役社長 林 総一郎 (はやし そういちろう)
本社所在地 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字後原66
創 立 昭和10年5月10日 (会社設立: 昭和43年2月3日)
資 本 金 1,000万円
従 業 員 数 60名
事 業 内 容 サケ・マス養殖、加工販売、釣り場経営 等

2 進出の経緯

- ・(株) 林養魚場は東日本大震災を契機に生産拠点の分散化を検討。
- ・ギンザケ養殖及び陸上養殖を推進していた本県も生産拠点の候補となる。
- ・県及び独自調査で地下水の湧出量が豊富にあった赤碕港 (新港地区) が選ばれた。

3 進出計画の概要

- (1) 予定地 鳥取県東伯郡琴浦町別所1128番地
※未利用県有地 (赤碕港港湾関連用地)
(2) 面積 約7,000㎡ (事業用定期借地権設定契約により貸付予定)
(3) 養殖手法 陸上循環濾過養殖システム (RAS) …特許取得
・飼育水を循環濾過することで場所を選ばずに安定した生産が可能。
・集中管理、自動給餌、自動酸素供給、遠隔監視システム等による効率化。
(4) 総事業費 約10億円
(5) スケジュール 平成28年11月 孵化棟完成
→ 発眼卵を搬入し生産開始
平成29年 3月 養殖場 (本棟) 完成
→ 養殖事業の本格開始
(6) 生産規模 ギンザケ600トン
(稚魚255トン、成魚345トン)
(7) 雇用計画 当初は4~5人でスタートし、5年以内に10人以上を雇用予定。



4 県及び琴浦町による支援内容

県の支援

- 1) 水産養殖企業立地支援事業費補助金
支援内容: 養殖施設の新設に係る経費及び養殖に必要な機器整備への助成
補助率: 県2/10
(投資額1億円以上+雇用10名以上: 1/10、被災地支援: 1/10)
補助金額: 約2億円
2) 新規就業者支援
新規就業希望者に対する研修に必要な経費を支援

琴浦町の支援

- 1) 琴浦町水産養殖企業支援事業費補助金
支援内容: 先端養殖技術を有する企業への支援
補助金額: 約6千万円
2) 固定資産税の減免
3) 雇用促進奨励助成金 (町内在住者を正規雇用した場合に交付)

協 定 書

平成28年8月

株式会社鳥取林養魚場
鳥 取 県
琴 浦 町

協 定 書

株式会社鳥取林養魚場（以下「甲」という。）、鳥取県（以下「乙」という。）及び琴浦町（以下「丙」という。）は、甲の琴浦町への養殖場の新設（以下「新設事業」という。）について次のとおり協定する。

第1条 甲は、別紙1のとおり新設事業を行うものとする。

第2条 乙及び丙は、前条に定める新設事業が支障なく円滑に行われるよう、誠意をもって協力するものとする。

第3条 甲は、新設事業に当たり、法令等の規定を遵守し、特に養殖場の運営等に当たっては、周辺環境の保全に努めるものとする。

第4条 甲は、従業員の採用に当たっては、琴浦町在住者を中心として、鳥取県内在住者及び鳥取県内へのI J Uターン者の積極的な採用に努めるものとする。

2 乙及び丙は、甲の人材確保に当たっては、誠意をもって協力するものとする。

第5条 甲は、事業に当たっては、鳥取県内企業への受発注に努めるものとし、また、操業開始後においても、鳥取県内企業との積極的な取引に努めるものとする。

第6条 甲が別紙1のとおり琴浦町に養殖場を設置することに対し、乙及び丙は、別紙2に掲げる支援を行うものとする。

第7条 甲、乙及び丙は、この協定に定める事業を実施する上で知り得た他の当事者の営業、人事、技術その他の業務上の機密（以下総称して「機密情報」という。）を保持するものとし、第三者に開示し、又は漏えいしてはならない。ただし、機密情報を開示しようとする者があらかじめ書面により当該機密情報を保有する他の当事者の同意を得た場合は、この限りでない。

第8条 この協定に定める事項について疑義が生じたとき、及びこの協定に定めのない事項については、甲、乙及び丙が協議して定めるものとする。

上記のとおり協定した証として、本書3通を作成し、甲、乙及び丙がそれぞれ署名押印の上、各自その1通を保有し、信義を重んじ誠実にこの協定を履行するものとする。

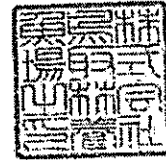
平成28年8月2日

甲 鳥取県東伯郡琴浦町大字赤碕1920番地7

株式会社鳥取林養魚場

代表取締役

萩原 岳人

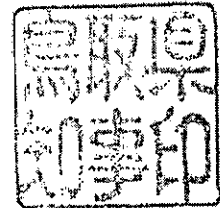


乙 鳥取県鳥取市東町一丁目220番地

鳥取県

鳥取県知事

平井 伸治

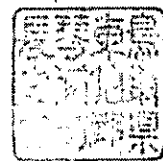


丙 鳥取県東伯郡琴浦町大字徳万591番地2

琴浦町

琴浦町長

山下 一郎



(別紙1)

新 設 計 画 概 要

- 1 事業所の名称 株式会社鳥取林養魚場
- 2 所在地 鳥取県東伯郡琴浦町大字赤碕1920番地7
- 3 操業開始 平成28年度(予定)
- 4 事業内容 赤碕港(新港地区:港湾関連用地)における最先端技術「陸上循環濾過養殖システム」を用いたギンザケ養殖場新設事業
- 5 雇用計画 10名以上(操業開始後5年以内)

(別紙 2)

1 鳥取県の支援

- ・ 水産養殖企業立地支援事業費補助金交付要綱に基づく支援
- ・ 鳥取県漁業研修事業費補助金交付要綱に基づく支援

2 琴浦町の支援

- ・ 琴浦町水産養殖企業支援事業費補助金交付要綱に基づく支援
- ・ 琴浦町産業振興に係る固定資産税の減免措置要綱に基づく支援
- ・ 琴浦町雇用促進奨励助成金交付要綱に基づく支援

平成28年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール審査結果について

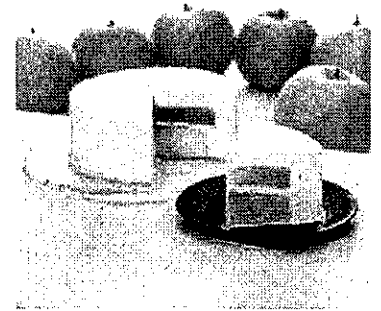
平成28年8月19日
市場開拓局食のみやこ推進課

本県産の農林水産物を主原料とした加工食品や本県産農林水産物の特徴を活かした加工食品の中から、優れた商品を表彰・PRすることにより、新商品の販路開拓等を促進することを目的として、「食のみやこ鳥取県特産品コンクール」を開催しました。

1 審査結果

- 1) 最優秀賞 ○事業者名：株式会社ホテルハーベストイン米子
商品名：梨花 RINKA

講評：鳥取県を代表する「二十世紀梨」のもつ食感と瑞々しい美味しさを生かすため、コンポート（果物の砂糖煮）にしてレアチーズケーキで包み込んでいる。梨のジューシー感を生かしながら、他の食材とも調和しており、見た目の面からも完成度が高い商品。梨を氷温技術で貯蔵することにより、鮮度を保って通年販売することが可能。



梨花 RINKA

- 2) 優秀賞 ○事業者名：大山ハム株式会社
商品名：＜PRIDE of 大山＞大山山麓産豚肉使用ハム・ベーコン詰合せ
○事業者名：有限会社宝月堂
商品名：MOCHI cube

- 3) 優良賞 ○事業者名：赤碕町漁業協同組合
商品名：日本海味くらべ 浜勢（はませい）
○事業者名：ありのみ倶楽部
商品名：鳥取二十世紀梨ゼリー
○事業者名：株式会社グラン・クリュ食工房
商品名：黒らっきょうチーズケーキ
○事業者名：有限会社長田茶店
商品名：純生 大山抹茶ろ〜る

2 受賞商品のPR等の支援

- 1) 最優秀賞受賞商品は、全国食品コンクール（優良ふるさと食品中央コンクール）へ県推薦商品として応募。
〔平成26年度には「天女の梨クーヘン」（株）プレマスペースが農林水産大臣賞を受賞〕
2) BSSラジオ「食のみやこ鳥取探検隊が行く」コーナーで事業者生出演による紹介を優先的に実施。
3) 県や商工団体等が主催する商談会等の案内を実施。
4) 食のみやこ鳥取県フェスタ等の関連イベント、県のホームページ等で紹介。

3 審査の概要

予備審査を通過した23商品（17事業者）の中から、品質、パッケージ及び市場性を審査し、受賞商品を選定。

対象：3年以内（平成25年4月1日～平成28年3月31日）に開発・改良された販売商品
開始年度：平成20年度（今回で9回目）

審査委員：鳥取短期大学生生活学科教授 松島 文子氏ほか9名

平成28年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール受賞商品一覧

賞	事業者名	商品名	商品画像
最優秀賞	(株) ホテルハーベストイン米子	梨花 RINKA	
優秀賞	大山ハム(株)	<PRIDE of 大山> 大山山麓産豚肉使用 ハム・ベーコン詰合せ	
優秀賞	(有) 宝月堂	MOCHI cube	
優良賞	赤碕町漁業協同組合	日本海味くらべ 浜勢 (はませい)	
優良賞	ありのみ倶楽部	鳥取二十世紀梨ゼリー	
優良賞	(株) グラン・クリュ食工房	黒らっきょうチーズケーキ	
優良賞	(有) 長田茶店	純生 大山抹茶ろ〜る	

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成28年8月19日
農地・水保全課

主務課	工事名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工期	契約年月日	工事内容	摘要
農地・水保全課 (農部農林事務所)	大口堰地区水利施設保全 合理化事業(土砂吐下部 工)工事	鳥取市 円通寺	株式会社 大谷組 代表取締役 大谷 廣秋	149,040,000円 (設計額 160,894,520円) 落札率92.57%	平成28年8月18日 ～ 平成29年5月30日	平成28年8月18日	農業用取水運付帯施設(土砂吐ゲート)下部工設置工事 土砂吐下部工 杭基礎工 仮設工 場所打杭12本 堤脚切工 延長21.6m 締切突板 220枚 工事用道路 1式	制限付 一般競争入札 G社 平成28年8月5日 開札
	大口堰地区河川工作物応 急対策事業(頭首工改修) 工事	鳥取市 円通寺	中央建設株式会社 代表取締役 西田 正人	113,184,000円 (設計額 120,302,280円) 落札率94.08%	平成28年8月17日 ～ 平成29年5月30日	平成28年8月17日	農業用取水運改修工事 護床ブロック 角道改修 仮設工 設置326個 1箇所 仮締切工 延長496m 補修工 掘削24, 813m3 工事用道路 1式	制限付 一般競争入札 G社 平成28年8月5日 開札

【当初契約】

